

巴 杏

三次地区医師会報

No.185

令和8年3月発行



「闘う父親と娘」というテーマで Midjourney というアプリで描いてもらった絵です。
(とあるところで使おうと思っているものの別バージョンです。) 映画マッドマックス
のような近未来ダークアクションの世界観を指定しました。

Midjourney の生成した絵はかつてデジタル絵画コンテストで優勝したことがあると
のことで、他の生成 AI にはない芸術性があるように思うのでリアル路線の時はよく使
います。

(この場を借りて、本年より年賀状を終了したことを申し上げます。ご了承いただけ
ましたら幸いです。)

久行 敦士

目 次

イラスト	久行 敦士
巻頭言	
少子化を考える	三次地区医師会 会長 中西 敏夫 … 2
故 小川徹郎先生を偲んで	三次地区医師会 会長 中西 敏夫 … 4
特別寄稿	
就任にあたり	広島県北部保健所 所長 平本 恵子 … 5
学術論文	
第3回地域で見る大動脈狭窄症の会 in 備北 大動脈弁狭窄症の適切な診断と治療に向けて … 広島市北部医療センター安佐市民病院 循環器内科 副部長 松井 翔吾 … 8	
第3回地域で見る大動脈狭窄症の会 in 備北 ここまで来た！TAVIの最新治療 … 広島大学大学院 医系科学研究科 循環器内科学 診療講師 池永 寛樹 … 9	
命のSDGsはSalt-Consciousと血圧管理 … 日下医院 院長 日下 美穂 … 10	
ブロックだより	
十日市医会 夏の納涼会	瀬野 康之 … 11
医師会行事	
—三次市在宅医療介護連携推進事業— 令和7年度第1回 医療と介護がともに学ぶ研修会「備北地域の医療介護連携」 … 三次地区医師会 理事	
広島県備北保健医療福祉推進協議会(びほくいききネット) 会長 中村 英典 … 13	
令和8年度 三次地区医師会・事業所 忘年会 … 三次地区医師会 広報担当理事 栗本 清伸 … 17	
随筆	
美容整形と自画像とキャンベルスープ	久行 敦士 … 18
私の主張	
… 市立三次中央病院 研修医 楠 慎太郎 … 20	
ファックス伝言板	
禁煙推進・受動喫煙防止 活動報告 … 禁煙推進委員 安藤 仁 … 21	
会員紹介	
… 市立三次中央病院 山岡 尚平 … 27	
… 市立三次中央病院 西本 祐美 … 28	
… 市立三次中央病院 竹田 雅彦 … 29	
会員異動	事務局 … 30
事業所現況報告	事務局 … 31
医師会日誌	事務局 … 32
編集後記	松尾洋一郎 … 35
写真	
「雪の巴橋」	三次写友会 山根 明代

少子化を考える



三次地区医師会 会長 中西 敏 夫

みなさま明けましておめでとうございます。

少し長い年末年始の休暇でした。いかがが過ぎましたでしょうか。この休暇中に『巴杏』の原稿を書いていましたが、高市首相の国会冒頭解散の報道が流れました。1月28日解散、選挙は2月8日と決定されました。最大野党の立憲民主党も公明党と中道改革連合を結成しています。現在、解散の大義とか各党の政策が発表されています。物価高対策が焦点の一つですが、いずれにしてもあまりに早い衆議院総選挙です。国民の判断を待つより仕方ありません。

ところで、年明け1月6日島根・鳥取両県で震度5の地震が発生し、三次でも携帯電話から地震情報のけたたましい警報音に続き、結構な揺れを感じました。平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災の慰霊祭のテレビ報道を見たばかりです。しばしば地震情報のテロップが流れますが、身近で起こると、やはり我が国は地震大国だなと実感しました。日本列島は、太平洋プレート、フィリピン海プレート、ユーラシアプレート、北アメリカプレートがぶつかり合う環太平洋造山帯に位置する世界有数の変動帯(ひずみ集中帯)

であり、その結果、地震・火山活動が活発で、フォッサマグナなどの特徴的な地形が見られますが、一方で豊かな温泉や魚介類といった恵みももたらしています(AI検索)。

今年(令和8年)は丙午、干支の組み合わせで、60年に一度巡ってきます。前回は昭和41年で、この年は丙午の迷信は根強く、出生数は25%以上にあたる46万人も減少しています。2年前に東京オリンピック、新幹線の開通など、いざなぎ景気・1965年(昭和40年)から1970年(昭和45年)まで続いた高度経済成長の幕開けの時代でした。

令和8年はこのような出生率の低下は起きないと思いますが、今回は少子化等の問題について少し調べてみました。人口統計では、出生率は一定期間の人口に対する出生数の割合で普通出生率：人口1,000人当たりにおける出生数を指し、合計特殊出生率(15歳から49歳までの年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に何人の子を産むかを表しています。資料により出生率の数値が若干異なるのはこのためです。人口が維持されるためには出生率2.07と言われています。日本の人口推移を出生数・率で見ると、日本の人口が1億人を超えたのは1967

年で出生率は2.22でした。人口のピークは2008年で約1億2,880万人でしたが、出生率はすでに1.36に低下しています。出生率が2.0を切ったのは1975年からで、いざなぎ景気の時代は、出生率は2.0以上で安定していました。2025年現在、日本の人口は、前年から大幅に減少し、総人口は約1億2,300万人台で、出生数は70万人を割り込みました。

少子化対策は重要政策の一つであり、政府は様々なプランを立ち上げています。最近問題になっている点は、子育て世代への不公平感や自治体の経済力による地域格差、たとえば、東京都とその周辺地域との明らかな格差などです。

国際的には、少子化対策の成功例として注目されたフランスやスウェーデンも一時的には出生率が上昇しましたが、その後減少に転じており、先進国G7トップのフランスも、ついに2024年に2.0を切っています。少子化の問題は様々な要因に根差しており、少子化対策のみでは解決は困難と思います。このような現状で外国人労働者の問題もこれから大きな政策で話題となってきています。

総人口は出生数と死亡数の差によって決まります。また都道府県では流入・流出が大きな問題です。人口が増加した都道府県は東京都以外にありませんが、やはり大都市圏への人口流出は止まっています。

団塊の世代が後期高齢者になる2025年、地域医療構想では病床数の問題ばかりが焦点となりました。結局、国の政策はどのように結論が出たのか明らかではありません。2025年の死亡数は160万人を突破しています。多死社会の問題についてはあまり話題になっていませんが、医療・介護の世界では大きな問題です。あまりに早い人口減少は東北地方や中山間地域を含む過疎地域では大きな問題です。2040年を見据えた地域医療構想が始まっ

ていますが、いつも言っていますように、地域の実情に応じた対応が必要と思っています。

ところで日本は本当に衰退に向かっているのでしょうか。

最後に少し元気になる記事を紹介しておきます。James Rineyの記事です。スタートアップ企業を支援する会社の代表です。もちろん日本語で書かれています。アメリカ人であることを誇りに思うと同時に、日本の一部であることにも誇りを持っています。日本は極めて優秀で勤勉な人材に満ちた国です。それにもかかわらず、世界から、そして時には日本人自身からも過小評価されてきました。2021年1月21日「失われた数十年への決別と、日本の第三の躍進」冒頭の文章の一部です。最も興味ある記事でした。その他「日本の出生率の話はもうやめよう」2026年1月13日ほか興味ある記事が掲載されています。一読をお勧めします。

みなさまのご健勝と、本年もかわらず三次地区医師会にご支援ご指導をお願いし、駄文の終了とします。





故 小川徹郎先生を 偲んで

三次地区医師会 会長 中西 敏 夫

謹んでここに、小川徹郎先生のご霊前に対し、三次地区医師会を代表し、心よりお別れの言葉を捧げます。

先生が十二月三十日にご逝去されたとの計報に、私たちは大変な驚きと衝撃を受けました。ご高齢とはいえ、つい先日までいつも通りに診療されておられたので、あまりに突然の訃報に、ただ呆然とするばかりです。

享年七十七歳の偉大なる生涯を閉じられたことに私たち会員は深い悲しみに包まれております。在りし日の先生のお姿が眼前に去来し、万感胸に迫り、人の世の無常を殊更に感じさせられる思いであります。

先生は昭和四十九年に東京医科大学をご卒業されると、都立大久保病院に勤務されて眼科医として研鑽を積まれたのち、中野総合病院眼科医長、厚生中央病院眼科部長を歴任されました。

その後、東京医科大学に戻られると、当時、眼科のなかった八王子医療センターにおいて、初代の眼科長としてご尽力されました。何もなかったところから眼科を立ち上げられたということで、どれだけの苦勞をなされたのか、想像もつきません。

その後も、東京医科大学で助教授を務められ、多くの患者様の治療にたずさわって来られました。また、後進の指導にも大変熱心であられ、先生をお慕いし、ご遺志を受け継い

でおられる皆様が大変多くいらっしゃると思います、本当に頭が下がる思いです。

先生は、平成九年に、ご尊父の小川杲二先生のご遺志を継ぎ、小川眼科を継承されました。爾来、先生は二十九年の永きに渡り、医師として昼夜を分かたず、県北の地域医療に多大な貢献をされてきました。真面目で実直なお人柄と丁寧な診療、そして大学で培った確かな技術で、日夜、眼科手術も行われてきました。まさに、身を粉にして地域医療に挺身され、地域の皆様からの信望を一身に集めておられました。

先生は偉大なる生涯を閉じられ、いま、われわれの眼前から去ろうとしておられます。私たちは先生の遺志を継承し、これからの地域医療を守っていくために、より一層努力していくことを誓い、改めてご霊前に心より感謝申し上げる次第でございます。

終わりに、ご遺族の皆様にはくれぐれもご自愛されることをお願い申し上げ、先生のご生前のご遺徳を偲び、限りない哀悼の誠を捧げまして、お別れの言葉といたします。小川徹郎先生、本当にありがとうございます。安らかにお眠りください。

合掌

令和八年一月四日

特別寄稿

就任にあたり



広島県北部保健所 所長 平本 恵子

今年度から広島県北部保健所長に着任しました、平本恵子です。三次地区医師会の会員の皆様におかれましては、平素より地域医療と健康増進の要として、公衆衛生行政への格別なご理解とご協力を賜り、この場をお借りして心より深謝申し上げます。

コロナ禍を乗り越えた今、私たちは、感染症や自然災害といった健康危機に加え、少子高齢化、メンタルヘルス、環境衛生、そして医療政策など、さらに複合的かつ多様化した課題が入り混じる、新たな局面を迎えています。

このような時代背景の中で、医師会の先生方との連携は、地域住民の「生きるを衛（まも）る」砦として一層深まっていると感じております。この重責を担うにあたり、まずは皆様に、私のこれまでの経緯と、所長としてこの保健行政に臨む所信の一端をお伝えいたします。

原点は“社会を動かすデザイン”への関心

私は子どもの頃から、生活の中にあるデザインに興味を持っており、目に見える形の奥にある「なぜこうなっているのか」について考えることが好きでした。また、イラストを

描いたりピアノを弾くという創作活動も楽しんでいました。その後、人のために直接役立つ仕事を、という父の助言もあり、医学部に進学。1998年に広島大学を卒業後、学生実習での体験をきっかけに同大学脳神経外科教室に入局し、以来、関連病院や大学院で、臨床と研究分野の様々な経験を積みました。

人生の難所で訪れた奇跡の原点回帰

臨床医として17年目が終わる頃、仕事と家庭に加え、両親の介護が必要になり、当時の脳神経外科教授に相談したところ、行政機関で働くことを勧められました。初めて聞く行政医師（公衆衛生医師）という職種について、当時の広島市保健所長に伺ってみると、目の前の一人ではなく地域全体の健康を守ることや、データを分析し企画立案をすること、さらに「社会の仕組みに興味がある」「つながりづくりが好き」であれば合う仕事だ、と助言されました。この時、子どもの頃から抱いていたデザインや仕組みへの興味、創作意欲が行政に活かされることを知り、思い切って行政の道にキャリアチェンジしました。

入庁当初は、公衆衛生全般における事業の

幅広さに圧倒されていました。しかし経験を重ねるにつれて、共に協働する存在が、目の前だけでなく、離れた関係団体との「見えないつながり」の中にも見えるようになりました。そうやって、多くの知見や熱意によって作られる行政の仕組みに、ますます魅了されていきました。

つながりを力に変える

「ひろしま社会医学系専門医研修」

入庁後間もなく、行政機関で活躍できるリーダー育成を目的とした「ひろしま社会医学系専門医研修プログラム」の第1期生として、3年間の履修機会を得ました。この研修は、県内の産官学連携のもと、様々な関連部署での実習を通じた実践力の養成と、広島大学公衆衛生学 MPH コースでの疫学研究・論文作成によるリサーチマインドの醸成を目的としています。このプログラムを経て、それまで漠然としていた公衆衛生行政、そして「つながり」の価値が、明確な形となって見えるようになりました。



広島大学公衆衛生学修士 MPH コースの授業風景（広島大学）

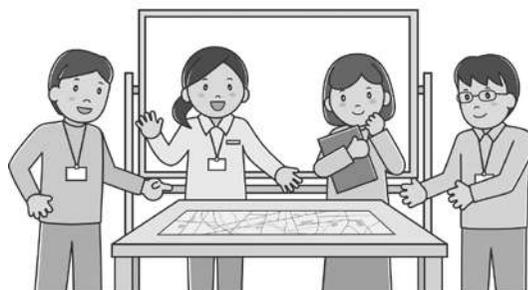
健康危機対応の先に見えた レジリエンス=回復力

行政医師に転向してからの9年間は、平成30年7月豪雨やコロナ禍、能登半島地震など、相次ぐ大規模な健康危機にも対応しました。膨大な業務に追われながらも、様々な関連部署と協働して仕組みを作り、解決していく中で、行政医師に必要なコア・コンピテンシー（*）が徐々に身につきました。



コロナ禍における行政内部の様子（広島市）

（*）コア・コンピテンシー：職務や役割において高い成果を発揮できる行動や思考、判断基準などの特性を指す言葉。社会医学系専門医研修で示されている、獲得すべき8つのコア・コンピテンシーは以下の通り。基礎的な臨床能力、分析評価能力、課題解決能力、コミュニケーション能力、パートナーシップ構築能力、教育・指導能力、研究推進と成果の還元能力、倫理的行動能力



健康危機とは、私たちの健康や生活に深刻な試練を与えますが、これを乗り越えた先に、これまでになかった新たなつながりや信頼関係が生まれるのを目の当たりにし、この回復力こそが、私たちの中にもともと存在する、地域社会を共に守ろうとする心なのだと確信しました。

またこの頃から、広島大学や全国保健所長会、さらに厚生労働省との協働事業に携わるようになり、全国のつながりを増やしながらか、そこで得た知見を広島県での新しい事業に活かすようになりました。こうして「見えないつながり」を「見える力に変える」ことが、行政医師としてのアイデンティティであり、キャリアの核心となっています。



広島県内の公衆衛生医師でつくる「ひろしま公衆衛生医師ネットワーク」



広島県 DHEAT (災害時健康危機管理支援チーム) 訓練の様子 (広島県庁)

三次地区医師会の先生方と創る未来

今年度より北部保健所長として着任し、三次地区の保健・福祉・医療分野における課題解決に向けて、先生方のご指導をいただきながら活動しております。高齢化率の高さに伴い、心疾患や脳卒中などの生活習慣病対策、こころの健康に関する支援体制の充実、さらに医療・介護人材不足により逼迫するへき地医療対策が喫緊の課題として挙げられます。これらの諸課題に対し、生活習慣病対策としては、地域に根付いた健康づくりの合言葉「くうでるうごく」を活動の柱としつつ、さらに社会参加を通じた孤立防止やこころの健康支援にも取り組んでまいります。また、こうした住民一人ひとりの自助・共助を支える基盤として、へき地医療をはじめとする地域医療体制の維持・充実は不可欠であり、三次地区医師会の先生方と緊密に連携しながら、持続可能な支援の仕組みづくりに邁進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



第3回地域で見る大動脈狭窄症の会 in 備北 大動脈弁狭窄症の適切な診断と治療に向けて

広島市北部医療センター安佐市民病院 松井翔吾
循環器内科 副部長

大動脈弁狭窄症は高齢者における心不全の代表的な原因である。また重症大動脈弁狭窄症では症状が出現すると急速に生命予後が悪化する。さらに高齢者特有の問題として、病期が進むほどに体力や生活機能が元に戻りにくくなるため、治療のタイミングを逃さないことが極めて重要である。

近年では、胸を開けずに人工弁を留置する経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）が広く行われるようになり、低侵襲かつ確立された治療として急速に普及している。

広島市立北部医療センター安佐市民病院では2024年7月にTAVIを導入し、2025年8月までに56例を実施した。患者背景は平均年齢85.5歳、女性60%、高血圧既往95%、心不全既往32%と、高齢で併存疾患の多い集団であった。TAVI導入にあたり循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・看護師・リハビリスタッフなどによるハートチームを発足し、並存疾患や介護度、患者の意向に配慮した個別化医療を重視してきた。その結果、これまで心血管イベントや心不全による再入院例はなく、安全に治療を行うことができた。

一方で、対象患者の大半を占める超高齢者では、介護や通院の負担、他疾患の進行など

医師一人の医療だけでは解決できない問題も多く、より広い視点が必要と考えている。このような経験を踏まえて、TAVIを「弁膜症治療」という枠を超え、「高齢者の生活を支える医療の一部」として発展させていくことを目指している。

（令和7年10月2日開催）



第3回地域で見る大動脈狭窄症の会 in 備北 ここまで来た！TAVIの最新治療

広島大学大学院
医系科学研究科 循環器内科学 診療講師 池 永 寛 樹

講演の内容は以下の3点である。

- 1：最近のTAVI
- 2：長期予後を見据えたTAVI
- 3：PCI after TAVI

重症大動脈弁狭窄症（AS）に対する治療方法は、外科治療（SAVR:Surgical Aortic Valve Replacement）、カテーテル治療（TAVI/TAVR;Transcatheter Aortic Valve Implantation/Replacement）、保存的治療がある。今回の講演会のテーマのTAVIは2002年にフランスでfirst in manが行われ、2013年本邦でも保険償還された。当初のTAVIはSAVRがハイリスク、もしくは手術不可能な患者を対象として行われていたが、外科手術低リスク症例に対するRCTであるPARTNER3 trialでTAVIがSAVRに対して全死亡、脳卒中、再入院で優勢を示したことによりTAVIもlow risk症例に適応が拡大され、2022年以降はSAVR件数をTAVI件数が上回っている。TAVIのアプローチ部位は当初は経大腿動脈アプローチ、経心尖アプローチ、経鎖骨下動脈アプローチ、経大動脈アプローチであったが、2024年より経頸動脈アプローチが開始となり、よ

り低侵襲での治療法の選択肢が増えた。2021年からは慢性透析患者に対してTAVIが適応拡大となり、2023年からはTAVI弁の弁機能不全に対するTAVIによる治療（TAV in TAV）も開始となっている。このようにTAVIの適応が拡大し、low risk症例に対してもTAVIが行われるようになってきているため、長期予後を見据えた治療戦略を立てる必要がある。その患者の個々の平均余命、状態を患者に伝え、一緒に治療方針を考えていくこと（Informed Shared Decisions）が求められている。また長期予後を達成するためには冠動脈疾患のマネージメントが重要であり、TAVI弁留置後のPCIに関してもその方法を熟知する必要がある。

（令和7年10月2日開催）

命のSDGsは Salt-Consciousと血圧管理

日下医院 院長 日 下 美 穂

高血圧は脳心血管死亡数への寄与が最も高い疾患であるが、本邦での高血圧管理目標値の達成率は先進国の中でも低い。その大きな要因としてイナーシャの存在があり、その解決のために、医療提供側、患者側の意識・行動変革が必要である。

その中でも日本人の塩分摂取量は依然高く、その改善は高血圧治療の基礎として急務である。国民の脳心血管病予防による健康寿命の延伸は、SDGsの中でも医師が実現すべき項目と考える。演者らの減塩の取り組みとして、まず「Salt Conscious」として捉えることとした。そして小学校給食での減塩化、地域のレストランでの減塩メニューの提案、G7サミットでの減塩ランチ提供などを実施した。小学校での減塩給食は中学校給食にも拡大された。このような子供世代への減塩食育は将来、高血圧や認知症を減少させることになるものと期待している。

そのような中、この度高血圧管理・治療ガイドライン2025が発刊された。血圧管理目標値が有害事象のない限り130/80（家庭血圧125/75）mmHg未満と一律で示され、わかりやすくなった。また降圧薬治療ステップが新たに設けられ、特にG2にMR拮抗薬や

ARNIなどの降圧効果の高い薬剤が入ってきた。これらにより血圧管理目標の達成・イナーシャの改善のチャンスがきたものと考えられる。

MR拮抗薬については、演者は以前より高血圧の改善・合併症の進展抑制のための選択肢として積極的に使用してきた。アルドステロン受容体の活性化には塩分過剰が関わっているため、多くの高血圧患者に有用と考えられる。当院では約500例のミネプロ処方があり、その自験での有効性・安全性について理解が進んでいる。ミネプロのデータを第Ⅲ相試験の結果を交えて解説した。

今回、高血圧管理・治療ガイドライン2025により、降圧目標130/80達成のための新しい治療薬選択肢が示された。

我々臨床医は、減塩の取り組みを基本に血圧管理、イナーシャの改善に挑み、国民の健康に貢献していかなければならない。

（令和7年12月11日開催）

十日市医会 夏の納涼会

瀬野 康之

昨年の5月にフレスポ三次で開業しました、三次せの泌尿器科の瀬野康之です。三次市在住10年目となりました。開業前は三次中央病院で9年間勤務させていただきました。この度十日市医会に入会させていただき、大変光栄に思っております。今後とも皆さまと学び、協力しながら地域医療に貢献していきたいと考えております。

8月21日、十日市医会の食事会が開催されました。この食事会はコロナの影響で中止になっており、数年ぶりの開催だったとのこと。食事会の復活に合わせて新入会・参加することができましたので、報告させていただきます。

食事会は8月21日、岡崎先生・堀川先生

が幹事をなされ、奥田元宋・小由女美術館内のレストラン洋食工房で行われました。栗本先生の司会進行のもと、終始和やかな雰囲気でした（正直ちょっと怖い雰囲気があるのかなと緊張気味で参加しました）。奥様方も参加されておられ、場の雰囲気を柔らかくしてくれていました。新入会は私を含め、三次こばやし眼科の小林先生、みよしこども診療所の則松先生の3名。私の前には鳴戸前医師会長、大倉先生と御大2人が座られ、やはり緊張してしまいました。この御大2人の掛け合いは大変おもしろくもあり、勉強になりました。現在の三次地区医師会の抱える問題点（あさぎり、医療センターなどの）、今後の展望などの話も伺いました。三次市でこれまで9



年間勤務医として働いておりましたので、ある程度の問題は聞きかじっておりましたが、深刻な問題であることを再認識しました。そして問題解決のため、活動されている先生の存在も教えていただきました。各先生方からの近況報告を伺いました。小根森先生、重信先生が70歳を過ぎておられるにも関わらず、フルマラソンを完走しているとは正直驚きました。堀川先生の血小板に対する熱い想いを

伺えたことも興味深かったです。パワフルな先生方でした。先輩方の話の場に参加できる貴重な会でした。先生方にとっては日常の会話なのかもしれませんが、自分にとっては勉強となることが多く含まれていました。これからも十日市医会楽しませていただきます。



—三次市在宅医療介護連携推進事業—

令和7年度第1回 医療と介護がともに学ぶ研修会 「備北地域の医療介護連携」



三次地区医師会 理事 中村 英典
広島県備北保健医療福祉推進協議会（びほくいぎきネット） 会長

令和7年11月20日、令和7年度第1回「医療と介護がともに学ぶ研修会」が備北地対協後援のもと広島県三次庁舎で対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催されました。

今回の研修会は、「備北地域の医療介護連携」と題し、地域の中核病院からの発信として市立三次中央病院病院長立本直邦先生と、かかりつけ医の立場からの発信として三次市志和地にて内科医院を開業されている重信医院院長重信和也先生をお招きしてご講演いただきました。

会長挨拶に続いて研修会関係者の紹介があり、講演1「かかりつけ医の立場から」という演題で重信先生の講演に移りました。

重信先生は、まず「三次市の現状」としてグラフを示して人口減少、特に生産年齢の減少が目立つこと、全国平均より高い高齢化率（2024年36.8%）をあげられました。また、医療介護資源の偏在や地理的な問題・交通アクセスの問題を示し、医療介護サービスを受ける側の難しさを示されました。この地域は一人暮らしや老々介護世帯が多く、高齢者は複数の慢性疾患を抱えていることが多いため医療的管理と生活支援の両方が不可欠です。医療と介護の共通の目的である「その人らしく生きる」を支えることを遂行するには、医療と介護が協力してシームレスな支援を行う必要があると強調されました。





私たちかかりつけ医は患者・家族の最も身近な相談窓口であり多職種連携のハブです。地域包括ケアの重要な柱である多職種連携を有機的に機能させるためにはお互い顔の見える関係をつくり、情報を共有し、信頼関係を構築する必要があります。当地域のかかりつけ医は市立三次中央病院や三次地区医療センターなどの後方病院とも密な連携を取り、日常診療では専門的検査・治療を依頼し、また、急変時には救急医療をお願いするなど、多職種と協働で患者に切れ目のない医療介護を提供しなければなりません。

今後ますます需要が高まるであろう在宅医療を個々の医院で負担なく行うのは困難です。三次市内では重信先生をはじめ8診療所が連携している在宅支援診療所のシステムについても言及されました。

実際の医療介護連携として、かかりつけ医以外に市立三次中央病院の緩和ケア内科・訪問看護・ケアマネージャー・福祉用具担当者など多職種が関わった50歳代男性末期がん患者の在宅看取りの例を挙げて連携の重要性をお話しされました。

講演後はいくつかの質問を受けていただきました。オンラインで庄原市のケアマネージャーより「多職種連携を円滑に行う時に大切な事」を尋ねられ、「患者によっては医師

には言えないことでもケアマネージャーや薬剤師に伝えていることがあるので、気になる情報があればなんでも話してほしい。特に普段の生活情報を教えてもらったらありがたい。服薬の有無（残薬については医師には把握できないことがある）について訪問系の方にお知らせいただきたい。また、医療者に対して敷居が高いと言われていたことがあったが「前よりは減ったがまだ感じることもある」「フラットにするためには常に情報共有するために話し合うことが大切」と述べられました。

続いて市立三次中央病院病院長立本直邦先生より“市立三次中央病院”地域&医療介護連携の現在地 — 過去・現在・未来 — と題してご講演いただきました。

市立三次中央病院は、昭和27年双三中央病院として設立され、数々の変遷を経て平成大合併により現在の名称の市立三次中央病院となりました。標榜診療科30科、医師数88名、総職員数587名の大病院となり、立本先生は令和7年4月に市立三次中央病院の第9代病院長に就任されました。大学ご卒業後の職歴と、1999年に当時の公立三次中央病院に着任されて以降の病院内と周辺開業医との関係性構築、大学医局から人気のある病院になるまでのご腐心・ご苦勞や、外科部長・副院長時代のご経験を病院への強い思い入れと

ともにお話しされました。立本先生の開業医・かかりつけ医を大切にされる姿勢は着任当時から変わらず、病診連携・病病連携に力を入れてこれ、各種研究会や講演会に参加されて徐々に開業医からの信頼を厚くされてきました。病診連携・病病連携の重要性が定着し、クリニカルパスが整うまで10年かかったそうです。

病院のホームページ作成、地域医療連携室、患者支援センター設立で病院の情報発信や、かかりつけ医あるいは他病院や多職種との関係性構築により、患者・患者家族に安心・安全な医療の提供を継続することができるようになっていきます。現在の平均在院日数は12日です。退院調整を受けている方は35%で、自宅退院が一番多く、最近は療養病棟を持つ病院への転院やグループホームへの退院も増えており、ますます医療介護連携の必要性が増しています。

かかりつけ医等からの紹介率は50%以上で逆紹介率も70%を超えていますが、地域連携室を通さずに受診される方がまだまだ多いそうです。特に夜間受診される方には医師が常駐していないところから救急受診され、患者家族が同伴でない場合どこまで救急医療を行っているのか判断できないことや、診療情報の返信が欠落することが問題点とのことでした。

お話は病院経営のことにも及びました。全国の病院で赤字経営が深刻化しています。広い備北地域で人口減・超高齢社会に適した、いわゆる地域需要に応じた医療提供体制をどう築いていけばよいのか、地域にある病院の特性に合わせて機能分化するなど、いろいろな可能性を模索されています。

また、新病院建て替え問題にも言及され、現時点での状況をお話しされました。

このように、ご自身の26年間にわたる病

院での歩みとともに、市立三次中央病院の現在地をお話しされました。

講演後には、事前に介護系から提出されていた質問に答えていただきました。居宅のケアマネジャーから「退院前カンファレンスに参加する場合の介護側の連携のポイント」についての質問には「医療と介護では目線が異なるので、介護側から不明な点を尋ねてもらうことが大切」と話され、ケアマネージャーも事前準備がしやすくなったようでした。

最後に、当協議会の尾野素子事務局長のまとめと重信先生・立本先生への御礼の挨拶で会を閉じました。

当地域では約15年前から本格的に地域包括ケアシステムを構築すべく、備北地対協を中心に行行政・医療・介護・福祉等、多職種間で本格的に検討を重ねてきました。研修会を主催した広島県備北保健医療福祉推進協議会も、平成25年に地域包括ケアシステム構築の一助となるべく地対協のご支援をいただいて設立されました。

今回の研修会は、地域包括ケアシステムの核となる医療介護連携について考えていくために、医療側からかかりつけ医と地域の中核病院を代表してお二人の先生にお話しいただきました。これからますます進んでいく人口減・超高齢社会を見据え、医療提供体制・医療介護連携をどう築いていけばよいのでしょうか。立本先生の講演にあるように、今後、どこにどのような医療がどの程度必要なのか、地域の病院間で客観的なデータをもとに役割分担や集約化を進める必要があるのだろうと思います。また、重信先生のご指摘のように、かかりつけ医と後方支援病院の役割分担を明確にし、切れ目のない医療提供を行うには多職種連携が必要です。医療と介護は「その人らしく生きる」を支えるという同じ目的

を持っています。医療と介護は目線が異なりますが、その目線を合わせるためには、情報の共有が必要であり、そのためには何でも相談できる職種間の信頼構築が重要です。

今回の研修会には対面・オンライン合わせて約30名の方が参加されました。職種は行政を含め7職種で、参加目的は「備北地域の医療・介護の現状把握」「多職種連携を円滑にするには」というものが多く、ほとんどの方が「参考になった」と評価されました。研修会開催が「2025年」にあたり、「2040年」を見据えた医療介護連携再考として時宜を得た企画であったと思われました。

令和7年度第2回の医療と介護が共に学ぶ研修会は令和8年3月5日に、介護側からの情報発信として「備北地域の共通課題への訪問介護からのアプローチ」というテーマで開催する予定です。多数の皆様のご参加をお待ちしています。



令和8年度 三次地区医師会・事業所 忘年会



三次地区医師会 広報担当理事 栗本清伸

去る12月18日、冬の澄んだ空気に包まれる中、令和7年度の「三次地区医師会・事業所 忘年会」が三次ワイナリーで開催されました。地域医療の一年を振り返るとともに、医師会や会員医療機関相互の連携をより強固にすることを目的として開催され、当日は医師会事業所職員のほか医師会員を含めて160名を超える参加があり、大変にぎやかな会になりました。

まず、三次地区医師会の中西会長より、本年の地域医療体制の振り返りとともに、多忙な診療業務の傍ら医師会活動へ尽力された会員諸氏への深い感謝の意が述べられました。また、医師会職員の皆様の一年の労をねぎらうお言葉を賜りました。乾杯の後、ワインや

BBQに舌鼓を打ちながら、専門科の垣根を超えた活発な情報交換が行われました。忘年会という場を通じ、日々の診療現場ではなかなかゆっくりと話す機会の少ない会員同士が顔の見える関係を深めることで、当地区の強固な病診連携・診診連携を再確認し、三次地区のネットワークを改めて確認する貴重な機会となりました。

最後は、来たる令和8年度に向けた地域医療のさらなる発展と、会員・医師会職員のご健勝を祈念し、盛会裏に閉会いたしました。師走の公私ともにご多忙な折、ご出席いただきました皆様に、心より厚く御礼申し上げます。



美容整形と自画像と キャンベルスープ



久行 敦士

数年前に、日本の確か女子高生だったと思うが、「美術部員だが、顔が醜く自画像が描けないので美容整形を受けた」というニュース記事を読んだ。

「整形して自画像と言えるのか？自画像の価値は？」「自分とは？美術とは？」私はすごく矛盾を感じたのである。

自画像というのは、内面も含めた自分のありのままの姿を印象深く表すというものであるはずなので、「ありのままの外観」「自分の心持ち」「それをメタ認知的に見つめる画家としての自分」を重ねていくべきなのではと自然には考える。それを拒否し整形してしまうということは、例えるならキャンバスにシールを貼ってしまうようなことである。

キャンベルスープをただ並べたアンディ・ウォーホルのような画家や、巨大フィギュアを提示する作家もいるので、「自分を題材としたポップアートである」とするならば、かなりシュールであるが美術といえるだろう。内容を言語化すると「自分には、均一化して認められた価値を実装した自分がある→自分というものが「ある」「ない」の2重構造がある」といったところであろうか。

自画像論としてのまとめとしては、「整形

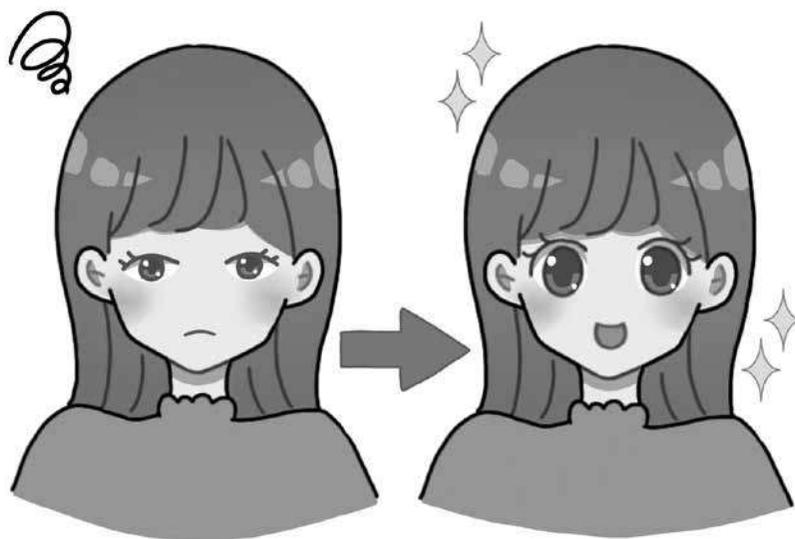
前」「整形後」の連作とすると最高の破壊力があるのではと考える。しかし作者本人は真摯に向き合うほど引き裂かれて、存在の危機が生じるかもしれない。

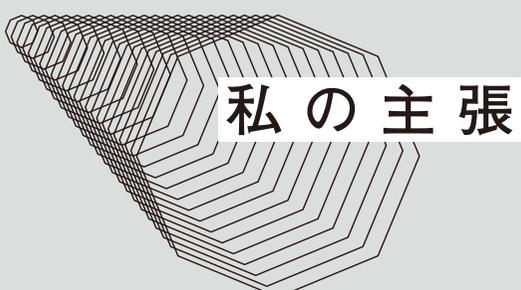
現実的には美しくないよりは美しいほうが有利であることがうかがわれるので、整形を行いたい人たちの気持ちはよくわかる。特に一点バランスを損なっている部分があるような場合、そこを改善させると効果がてきめんで、ハッピーになれそうである。人生は本人のものなので、本人がハッピーになれるなら他人がとやかく言うべきでないともいえる。

しかしその自由はもちろん否定しないが、自分自身や背負った課題と真摯に向き合った結果の柔らかい自然な笑顔、意思の宿った眼光、穏やかな皺などは整形によって失われる場合も多いことは念頭に置く必要があると考える。その価値よりお金で買える画一的な形を優先させる美意識は、安易な価値を補充しなければ満足感が得られない重厚感のない人格から成り立っている恐れがある。その行き着く先が整形・メンテナンスに何千万円も消費したような「改造美女インフルエンサー」であり、彼女らが笛吹き役となり、多くの若い女性が追従する…

まあそこまで極端ではない人も多いだろう。優先されるべきは人格形成であるが、そこが満たされていれば適度に整形することは特に問題ないのではというのが結論となるだろうか。

キャンベルスープは消費される商品であるが、人は生きていかななくてははいけない。しかし、そのためにはキャンベルスープのようなものも食べなくてははいけない。





私の主張

市立三次中央病院
研修医

楠 慎太郎



市立三次中央病院に研修医として赴任してから、気づけば2年が経ちました。1年目は分からないことばかりで、検査のオーダーひとつするにも自信が持てず、救急外来でどのように立ち振る舞えばよいのか戸惑う日々が続いていました。

しかし、救急科での研修をはじめ、さまざまな診療科の先生方と関わりご指導をいただく中で、徐々に自分の頭の中が整理され、以前に比べると救急外来で患者さんを前にして、どのように対応すべきかが分かる場面も増えてきました。

研修を重ねる中で、内視鏡を用いて診断から治療までを一貫して行える消化器内科に強い関心を抱くようになりました。自らの手で病変を直接確認し、その場で治療へとつながられる点に大きなやりがいを感じています。

来年度からは、母校である川崎医科大学総合医療センターにて、消化器内科医として赴任することになりました。現在も判断に迷ったり、時には失敗を経験したり、指導医の先生方からアセスメントを修正していただく場面は少なくありませんが、市立三次中央病院での2年間の研修を通して得た経験を来年度からの診療に生かすと同時に、さらに医師として成長していきたいと考えています。

後期研修医として新たな立場となりますが、知識や技術の習得だけでなく、患者さんや医療スタッフから信頼される人柄を重視した医師を目指して頑張っていきたいと思えます。

フアックス伝言板

禁煙推進・ 受動喫煙防止 活動報告

2025.10.~2026.1.

禁煙推進委員

元あんどろ眼科院長

安藤 仁



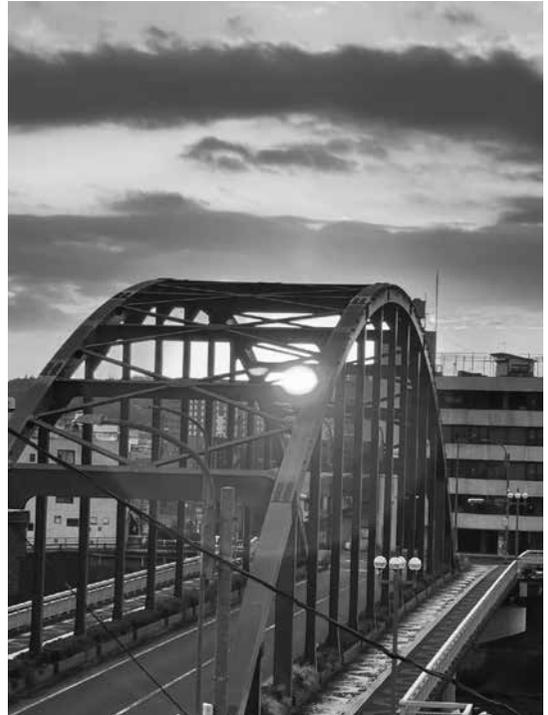
昨年末に三次の眼科医療を長く支えていただいた小川徹郎先生が亡くられました。76歳でした、大変残念です。

お父様の後を継がれて三次に戻られ眼科医療を支えていただけてきました。大変お世話になりました。ありがとうございます。謹んでご冥福をお祈りいたします。

二男の小川俊平先生が3代目の院長になられて診療を続けられると1月15日の小川眼科ホームページに書かれていました。大きな診療の空白をまねかないとのことで一安心です。突然の事なので様々に大変だと察します。三次市での日々の診療や生活に慣れてこられませうようお願いいたします。

以前から心配していたことですが、三次の医療を支える開業医の先生方が高齢化していることが心配です。令和4年開業医の全国での平均年齢は60.4歳だそうです。(厚生労働省：令和4(2022)年医師・歯科医師・薬剤師統計)

昨年11月20日(木)、保健所6階会議室で開催された広島備北保健医療福祉推進協議会に出

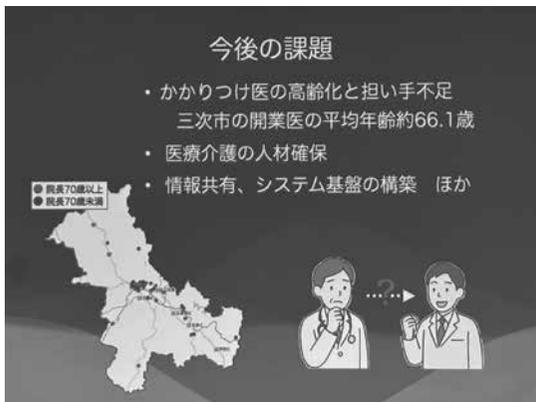


2026.1.1. 7時25分巴橋から出てきた初日の出です。例年よりも強く燃えるように赤く見えました。粉雪が飛んでいました。



1月3日雪が降りました。25センチ積もりました。その後、なかなか雪が融けなくて1週間は空気がひんやりしていました。

席いたしました。演者以外での開業医の参加は私だけでしたが、WEBで参加された先生はおられたと思います。演者の重信先生のスライドをお借りしました。三次市医療の今後の課題と



して、かかりつけ医の高齢化と担い手不足を強調されていました。三次市の開業医の平均年齢は66.1歳。全国の60.4歳よりも約6歳高齢化が進んでいます。全国平均は毎年0.2～0.4歳上昇していますが、瀬野先生や小林先生、小川先生のように若い先生が続いて開業されないと1歳ずつ上昇する年が続きます。

医師個人には定年制はありませんので何歳になられても医療は続けることはできます。

しかし、地域の医療体制が後期高齢者になられている10名の開業医のパワー抜きには成り立たないという現実をどう考えたらよいでしょうか。

私は、2024年10月1日にあんどろ眼科を閉院しリタイアさせていただきました。スタッフ不足、電子カルテ採用困難、医療収入減少、マイナ保険証対応など色々な対応ができなくなりそうと判断したためでした。後継者が見当たらないので決断、72歳でした。諸先輩は続けられているのに申し訳ないと思いつつ。また皮膚科の小迫先生も2025.12.に閉院。

後継者のいらっしゃる先生で、ご家族内で継承されることが可能ならば、三次市や広島県、国にも継続して開業医を続けられるように、希望すれば支援が出るように考えてもらいましょう。県北の三次市が支える中山間地域の医療体制を、さらに良く維持するためにも積極的に開業医の先生を支援する方法を考えるのは市や県の責任だと思ってほしい。市立三次中央病院に医師が80人90人といっても、開業医の先生が長く続けてきた家庭医・かかりつけ医の役割は代替え困難と思います。近くにあってかかり易く相談しやすく受

診しやすい。人口減少などで、開業医の先生も減少してきていますが、広く三次市の中で活躍されています。10年前から何年後にはどうなるか考えられていたはずですが。前の増田市長さんにも、開業医の先生は頑張っていますが、限界が見えているはずですが。高齢者はもちろん、すべての市民が医療サービスを受けるのに困らないように考えて下さい、と提案していました。中央病院では提供できない地域に必要な医療体制を積極的に維持するために、早急に対策を市と県は考えて下さい。私たちの三次地区医師会中西会長は市立三次中央病院長を長く務められ、三次市・広島県・広島大学とも幅広くご存じですので、ぜひとも開業医の診療サービスを継続発展できるようにご尽力願います。重要なのは三次市福岡市長さんをはじめとする市の対応と思います。すぐ対応しないと、この先多くの市民が困ります。中央病院研修医の先生が地域医療を学ぶ方法として、例えば患者さんの住環境や人間関係なども知ることができる開業医の所で研修をすることは可能でしょうか？新しいことにチャレンジしてください。

三次市の高齢化率は2025年に38.7%と言われています。このグラフの予想の36.8%を上回る勢いです。人口減少も2025.11.で47,286人毎年500人を上回るペースで進んでおります。



全国平均の何十年先を三次市は進んでいるのでしょうか？医療・介護・福祉の先進モデル事業などの指定をいただけないでしょうか。早めの対応をお願いします。

三次町住吉神社前の
佐々木おもち屋さんの前
にある低い街灯の明かり窓
に書かれている稲生物怪
物語の魔王と平太郎です。



前号184号でお知らせ
していましたが、みよしモノ
ノケ禁煙物語紙芝居を第
19回日本禁煙学会学術総会の一般演題で報告
してまいりました。



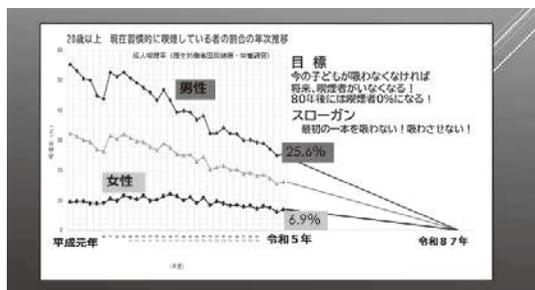
まずは、三次市のアピールをしました。

三次市に伝わる「稲生物怪物語」を使った紙
芝居で小学生に防煙・禁煙教育の試みを始めて
いる。小学生に広く、最初の一本を吸わないこ
とをアピールしていきたい。



演題名にある「みよし」の紹介をします。

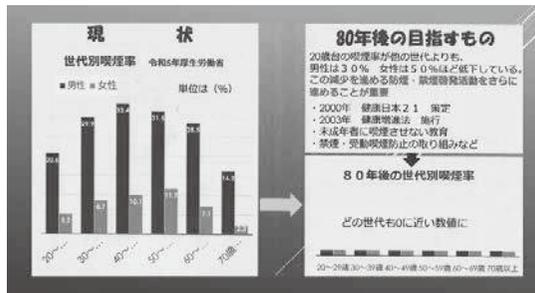
物語の舞台になる三次市のことです。サンジ
と書いて、ミヨシと読みます。人口約5万人。
広島県中央部にあり、広島市と松江市の中間に
あります。江戸時代中期から稲生物怪録という
江戸から全国に広められた物語がありました。
この稲生物怪録を活用した小学生などの子ども
にアピールできる紙芝居を作り、防煙・禁煙・タ
バコ教育を子どもたちに広めようと考えました。



グラフは、20歳以上で現在習慣的に喫煙し
ている者の割合の年次推移を表わしています。
まだまだ喫煙者は多く、男性で4人に1人、
女性で14人に1人がタバコを吸っています。

< 目標を 掲げましょう >

今の子どもが吸わなくなれば、将来、喫煙者
がいなくなる！80年後には喫煙者が0になる！
スローガンは、「最初の一本を吸わない！吸わ
せない！」です。



このグラフで、令和5年の喫煙率の現状を
世代別・男女別で見ましょう。

20歳代の喫煙率が、他の世代よりも
男性は30%、女性は50%ほど低下しています。
この低下を、さらに強力に進めることが重要で
す。低下を続けて、右グラフのように80年後
にはどの世代も喫煙率0に近い数値にしたい。

なぜ紙芝居なのか 印象深い啓発ツールづくり

- ・ 防煙・禁煙を子どもに親しみやすいツールで訴える。
- ・ 三次市に伝えられている物語でタバコの害を絵と声で表現し忘れられない啓発ができる。
- ・ 熱く実演する姿を見せ、我々の熱意を伝えることができる。
- ・ 行政や学校の行事・授業で演じることにより、行政や学校との連携を図ることができる。

では、なぜ紙芝居ですか？

それぞれの場面を印象深く表わす啓発ツールです。

1. 防煙・禁煙を子どもたちに親しみやすく訴えることができる。
2. 三次市に伝えられている物語でタバコの害を絵と声で表現し、忘れられない啓発ができる。
3. 熱く実演する姿を見せ、我々の熱意を伝えることができる。
4. 行政や学校の行事・授業で演じることにより、行政や学校との連携を図ることができる。

このあと、紙芝居の一場面を紹介しました。

主人公公平太郎は、父君のタバコをキセルしようとして山本五郎左衛門に見つかり、タバコに取りつかれると大変な目にあうぞと諭される。タバコにとりつかれたモノノケが襲い掛かってきたらこのお札を出して撃退するのじゃと言われたお札を持って日々を暮らす。7月になるとタバコにとりつかれた妖怪が次から次へと平太郎に襲い掛かってくる。毎晩毎晩ひっきりなしに平太郎に迫るモノノケ。

もらったタバコ退散などのお札を掲げてモノノケと戦いながらタバコの害の多さをモノノケの話の聞きながら知らされて考える。

【ぼく、タバコなんか吸わないよ】

魔王が登場。タバコを吸おうとする子どもがあれば、わしのモノノケどもを差し向ける所存。「最初の一本を絶対に吸わないよう伝えるのが、このわしの務めじゃからのう。」

47回目の三次市最大の祭り夏のきんさい祭で三次中央ロータリークラブのブースで紙芝居を上演しました。50名以上の人に見てもらい、34名からアンケートを回収。小学生は13名で

男子6名、女子7名でした。20歳になったらタバコを吸うと思いますか？の質問に3人が吸う、わからない1名でした。見た後は、吸わないと吸うと入れ替わる子もいましたが、やはり人数は吸う3名と分からないが1名で、人数的には変わりませんでした。13名中4名が20歳になったら吸うかもしれないと答えて、約30%と多くいてショック。

新型・加熱式タバコについては5名が知っているが8名約62%が知らない。新型・加熱式タバコの有害性を知らせることも大切と確信させられた。

教育委員会や三次市健康推進課にもこの結果を伝え、タバコの防煙・禁煙・タバコ教育の推進を訴えました。

実際に小規模小学校での「みよしモノノケ禁煙物語紙芝居」を使ったタバコ防煙・禁煙教育をしましょうと要望し、できることになりました。

考 察

- ① 家族や身近な大人などに喫煙者がいると、子どもが喫煙者になりやすい。小学生からの啓発が必要。
- ② 我々が、紙芝居を学校で演じることで、学校・教育委員会・行政の認識を変えることが重要だと再認識させられた。

エンディングで、来年の第20回広島大会に多くの皆様の参加をお待ちしておりますとアピールしました。



11月6日(木)、三次中学校区にある河内こうち小学校で12名の小2から小6までの児童に見てもらいました。私を含めて三次中央ロータリークラブのメンバー4人で行きました。賑やかに演じることができ、楽しくできました。その後、

感想や意見を一人一人が熱心に発表をしてくれて、我々一同おおいに感激させられました。



紙芝居を見る前のアンケートでは。

20歳以上になったらタバコを吸うと思いますか？吸う1名 吸わない7名 わからない3名。

紙芝居を見た後のアンケートでは。

20歳以上になったらタバコを吸うと思いますか？吸う0名 吸わない9名 わからない2名。吸うと言っていたが紙芝居を見て多分吸いたくないとなると思うとのこと。

お！紙芝居効果があるかなと手ごたえを感じました。新型・加熱式タバコについては、知っている5名、知らない6名でした。55%が知らないと返事。新型・加熱式タバコについての教育をしっかりしてもらいましょう。

12月になりましたが、かねてから紙芝居を見て禁煙防煙教育をして下さいとお願いをしていた三次小学校で、みよしモノノケ禁煙物語紙芝居上演日が決まりました、12月18日(木)。



三次小学校6年生32名に三次中央ロータリークラブのチーム紙芝居のメンバー4名で上演し、見てもらいました。

三次のモノノケ物語を、知らないのは4名で12%でした。さすがに三次小でしたが、知らない子がいたのは少し残念です。

紙芝居を見る前にアンケートをしました。

20歳以上になったらタバコを吸うと思いますか？ 吸う0名 吸わない24名 分からない8名25%。分からないと答えた児童の思いはどのようなのでしょうか。無記名、理由は聞かれず。

紙芝居を見た後は、分からない8名のうち7名が吸わないと思うとなり、紙芝居を見るだけでもタバコを吸わないで欲しいとのメッセージが心に伝わるのかも知れないと思われました。

新型・加熱式タバコについての認識については、18名で56%が知りませんでした。

新型・加熱式タバコについて紙巻きタバコより害が少ないかのような宣伝を、大人が思い込んでいる現状があります。子どもと生活をする空間で、ご夫婦が、子どもたちの前で吸っている家庭もあり大変です。文部科学省から、新型・加熱式タバコに関する通達は発出されていませんか？新型・加熱式タバコについての三次市教育委員会のご指導の現状をお教えてください。一緒に検討をさせてください。よろしくお願いたします。

見た後の感想や意見発表が活発でした。発表者の顔を見ながら、そうですと同意をあらわしたり素晴らしいですね。大人の煙を避けるようにしているとの声もありました。

・タバコを吸った人の周りの人や生き物にも影響がある。・ポイ捨てしたら火がついたら危ない。・肺が壊れると思っていただけ、硬くなることが分かりました。・山火事になると動物たちもいなくなる。・吸っている人の近くには寄らない。・モノノケをうまく利用してタバコのことを伝えていたのも凄いなと思った。タバコを吸っている人に紙芝居の内容を伝えてタバコを早く辞めてもらいたいと思います。・なにげに一本のタバコを吸う。それがこんなに大きな影響力があり怖いと思いました。・20歳以上の人が吸うものだから、自分には関係ないものと思っていた。タバコの煙を吸うだけでも自分の体に害のあることを初めて知ったので、大人に

なっても絶対に吸わないようにしようと思った。
・たった1本のタバコでやめられなくなる人もいる。
・赤ちゃんにも影響すると思った。
・ストレスがたまったからと吸うのも良くない。
・火をつけないタバコも同じように害のあることを知った。
・**私たちの体は、完全には出来上がってはいないから、タバコを吸ったら将来危なくなると思ったら怖くなりました。**

凄い！感受性が高いですね。正しい知識を持つことが大切だと思います。お互いに頑張りましょうと言いつつ上演会を終了。もう終わるんですか？もっと知りたいとのリクエストもありました。

喫煙・飲酒・不法薬物の学習は、これからだそうで、新鮮な情報が心に沁み込んだようでした。授業でも多くのことを学んでください。

さらに八次小学校6年生87名にも、みよしモノケ禁煙物語紙芝居を1月30日(金)に見てもらえることになりました。3クラス一緒の学年集会形式で紙芝居の実演と65インチの大型テレビモニターでも紙芝居を写して後方の児童にも紙芝居の様子が分かるようにしてみます。

中学生になる前に、みよしモノケ禁煙物語紙芝居をぜひ見てもらいたいのので、他の小学校にも行きたいと考えております。

5月31日(日)の世界禁煙デーに合わせて禁煙デーイベントを、サングリーンのセンターコートで開催しましょう。コロナ禍があり7年ぶりでしょうか。10月24日(土)25日(日)に第20回日本禁煙学会学術総会を広島県医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会が県医師会館、歯科医師会館、薬剤師会館を使って開催します。演題募集をいたしますので、ぜひ禁煙学会にご参加ください。

世界禁煙デーのイベントを盛り上げましょう。禁煙・タバコ活動にお力をお貸しください。以前していたように健康推進課と連携をお願いしたいと思います。三次地区医師会禁煙推進委員会の皆様、お力添えをお願いいたします。安信先生、小根森先生、岡崎先生!!

2月17日には第4回禁煙学会学術総会準備会が開催されます。しっかりしたプログラム予定と運営方法を議論したいと思います。

マツダスタジアム敷地内禁煙化を進めるために広島市の担当者と話し合いがあります。あの巨大な喫煙所をなくし、受動喫煙もサードハンドスモークも受けなくて、楽しくカープ応援ができるマツダスタジアムを諦めずに目指しましょう！



会 員 紹 介



市立三次中央病院 小児科

山岡 尚平

2025年10月から三次中央病院に勤務しています、小児科の山岡尚平です。三次で働くのは2回目で、2019年4月から9月までの6か月間お世話になりました。前回は半年という短い期間でしたが、僕自身が庄原出身であったこともあり、県北の中核病院で働くことができ、嬉しかったこと、充実感があったことを覚えています。

平成27年、2015年に島根大学を卒業しましたので、医師としてのキャリアも11年目になりました。前回赴任時の6年前、私は後期研修医の立場で、小児科医4人で一番学年が下でした。関係ありませんが、当時は院内に趣深い売店と食堂が残っていました。特に売店は平成初期の病院の雰囲気を色濃く残していたので、撤退は残念でなりません。

話を戻します。2025年現在、市立三次中央病院小児科の医師は6人に増員され、自分の立場は部長に次ぐ2番目になりました。何よりもプレッシャーに感じているのが、今回の人事が前部長の下菌先生との交代であるところです。患者さん・ご家族はもちろん、小児科の先輩、後輩、他職種の方々、皆様に迷惑をかけてはいないかと、初めての三次では感じる事のなかった緊張感があります。

ただ一方で、その緊張感も力に変えられそうだな、と思うところもあります。県北で小児科医療に携わることは私の長年の夢でした。今回は長く三次に残って、慢性疾患の患者さん、難しい病気の方も自分が責任をもって診療に当たらせてもらう、そのような決意で赴任しています。

三次は変わりました。CCプラザはフレスポになり、コメダ珈琲もできました。私も変わったところを見せないといけません。売店にセンチメンタルな感情を抱くのも今日で最後にします。辛いときはすし辰、博多屋といった名店がきっと私を支えてくれます。最高です、三次。からあげ百助も大好きです。最高の環境で日々精進します。ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



会 員 紹 介



市立三次中央病院 産婦人科

西本 祐美

このたび市立三次中央病院産婦人科に赴任いたしました、西本祐美と申します。2020年に広島大学を卒業し、広島大学病院、広島赤十字・原爆病院で初期研修を行い、忙しくもやりがいの溢れる産婦人科の世界へ飛び込みました。後期研修医としてJA 広島総合病院、市立三次中央病院、広島大学病院、呉医療センターで研修させていただき、このたび1年半ぶりに再び三次の地で勤務させていただくことになりました。

医師になって以降、毎年引っ越しをして新天地で勤務をしておりますが、三次は自然豊かで空気が綺麗で人も温かくて、とても住みよい街だなと改めて感じております。再びこちらで勤務させていただけることをとても嬉しく思います。しかし寒さに弱く雪道の運転も慣れないので、今年の雪がほどほどであることを願うばかりです。

こちらに来てから早3か月が経ちましたが、周りの先生方やスタッフの皆様のおかげで忙しくも充実した日々を過ごしています。手技も含め色々とやらせて頂ける恵まれた環境であることに感謝しつつ、来年度からは産婦人科専門医として、さらに前進できるように研鑽を重ねて参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



会 員 紹 介



市立三次中央病院 眼科

竹田 雅彦

このたび、市立三次中央病院眼科に赴任いたしました、眼科医2年目の竹田雅彦と申します。広島大学卒業後、県立広島病院で初期臨床研修を修了し、2024年から眼科の道を歩み始めました。まだまだ未熟な点も多く、日々の診療の中で多くを学ばせていただいているところです。

私は幼少期の5歳まで三次市で過ごしており、三次には多くの思い出があります。今回、医師としてこの地に戻り、地域の皆さまの目の健康を支える立場になれたことを、大変うれしく、また身の引き締まる思いで受け止めています。

眼科という分野は、高齢化社会においてますます重要性が増しており、白内障や緑内障、糖尿病網膜症といった慢性疾患から、急な視力低下、外傷などの緊急対応まで幅広い分野にわたります。私自身、患者さまのQOV（quality of vision）を維持・向上するという眼科医の役割の大きさを実感しながら、一人ひとりの訴えに丁寧に耳を傾ける診療を心がけております。

県北地域では専門的な医療資源に限られる中で、地域の中核病院として果たすべき役割の重さを感じています。今後も知識と技術の向上に努めながら、三次の皆さまに信頼される医師を目指して歩んでまいります。今後ともよろしく願いいたします。



会 員 異 動

(入 会)		異動日	備考
市立三次中央病院	放射線治療科	亀岡 翼	令和7年4月1日
市立三次中央病院	産婦人科	向井百合香	令和7年10月1日
(退 会)		異動日	備考
市立三次中央病院	糖尿病・代謝内分泌内科	野原 佑珠	令和7年3月31日
市立三次中央病院	消化器外科	清戸 翔	令和7年3月31日
市立三次中央病院	皮膚科	芦澤 慎一	令和7年5月31日
市立三次中央病院	産婦人科	大亀 真一	令和7年9月30日
市立三次中央病院	小児科	下菌 広行	令和7年9月30日
自 宅 会 員	腎臓内科	京田 尚子	令和7年5月31日
小 川 眼 科	眼科	小川 徹郎	令和7年12月30日 死亡退会
(異 動)		異動日	備考
こさこ皮膚科クリニック	皮膚科	小迫 雅敏	令和7年12月22日 自宅会員(廃業)

PHC

Healthcare with Precision

medicom-HRf



Medicom-HRfには医療機器に該当する機能は含まれておりません。

PHCメディコム株式会社

広島営業所 〒733-0002 広島県広島市西区楠木町2-8-7
TEL:082-239-3366 FAX:082-238-2279

ハイブリッド型電子カルテシステム

※関連特許出願中

◆ 電子カルテに実績あるメディコムのクラウドサービス！

MedicomCloud

メディコムは、
院内運用とクラウドの
ハイブリッド運用サービスを提供！

◆ オンライン資格確認もメディコムにお任せ下さい！

パナソニック製カードリーダーで
メディコムだけのオールインワン
方式が可能になります。



▶ ホームページもご覧ください。
<https://www.phcd.com/jp/phcmn/>
右記QRコードからもアクセスできます。



医師会事業所現況報告

医療センター入院実績								(R7.8~R7.11)
項目	8月	9月	10月	11月	合計	平均	備考	
新入院患者	71	72	76	65	284	71.0		
内(救急入院)	1	4	6	3	14	3.5		
退院患者	80	76	72	69	297	74.3		
月末在院患者	81	77	82	78	318	79.5		
在院患者延数	2,656	2,486	2,433	2,398	9,973	2,493.3		
平均入院患者数	85.7	82.8	78.5	79.9	327	81.7		
協同指導回数	0	0	0	0	0	0.0		
実働病床利用率	86.5	83.7	79.3	80.7	-	82.6		
検査外来患者数	886	907	982	854	3,629	907.3		
その他(ドック)	316	356	478	350	1,500	375.0		
三次市休日夜間急患センター外来実績								(R7.8~R7.11)
市町	8月	9月	10月	11月	合計	平均	備考	
旧三次市	125	84	50	105	364	91.0		
吉舎町	8	1	4	9	22	5.5		
三和町	3	1	0	2	6	1.5		
三良坂町	4	4	2	14	24	6.0		
君田町	7	1	1	5	14	3.5		
布野町	6	0	2	3	11	2.8		
作木町	7	2	2	2	13	3.3		
甲奴町	1	3	1	2	7	1.8		
その他	22	17	10	12	61	15.3		
合計	183	113	72	154	522	130.5		

	粟屋禎一 先生 (市立三次中央病院 /WEB)		循環器内科心臓血管Ⅳ科 科長 滝村英幸 先生 (三次グランドホテル)
9.29	• 市立三次中央病院地域医療支援 病院運営委員会 (市立三次中央病院)	10.19	• 日医かかりつけ医機能研修制度 応用研修会 第2回 (広島県医師会館)
9.30	• 市郡地区医師会長会議 (WEB)		
10.1	• へき地医療支援機構運営委員会 (広島県医師会館 /WEB)	10.23	• 備北地対協理事会 (三次グランドホテル)
10.2	⑩学術講演会 第3回地域で診る大動脈狭窄症の会 in備北 演題1「大動脈弁狭窄症の 適切な診断と治療に向けて」 講師 広島市立北部医療センター 安佐市民病院 循環器内科 副部長 松井翔吾 先生 演題2「ここまで来た！ TAVIの最新治療」 講師 広島大学大学院 医系科学研究科 循環器内科学 診療講師 池永寛樹 先生	10.29	• 急患センター WG (医師会多目的室) • 運営委員会 (医師会多目的室)
		10.30	• 広島県備北保健医療福祉推進協議会 (医師会多目的室) ⑩学術講演会 演題1「当院における アルツハイマー型認知症の BPSDに対する治療について」 講師 三次神経内科クリニック花の里 院長 伊藤 聖 先生 (十日市きんさいセンター /WEB) 演題2「アルツハイマー型認知症に 伴うBPSDの最新の治療」 講師 メープルヒル病院 院長 石井伸弥 先生 (十日市きんさいセンター /WEB)
10.7	• 広島県医師会理事会 (広島県医師会館 /WEB)		
10.8	• 執行部会 (医師会多目的室)		
10.17	⑩学術講演会 第14回県北心不全診療研究会 演題1「ARNIの投与経験による考察」 講師1 庄原赤十字病院 循環器内科 上岡史生子 先生 講師2 広島市立北部医療センター 安佐市民病院 循環器内科 谷 幹雄 先生 演題2「インターベンションでは 治せない長期予後のための 高血圧治療」 講師 総合東京病院 心臓血管センター	11.3	• 日医かかりつけ医機能研修制度 応用研修会 第3回 (広島県医師会館)
		11.6	• 広島県北部保健所 自殺予防研修会 (広島県三次庁舎)
		11.9	• 広島医学会総会 (広島県医師会館)
		11.12	• 執行部会 (医師会多目的室)
		11.15	• 広島医学会北部支部大会 (安芸高田市医師会担当) (三次グランドホテル)
		11.17	• 広島県医師会医療安全研修会 (広島県医師会館 /WEB)
		11.20	• 三次市就学健康診断

(三次市役所)

- 備北保健医療福祉推進協議会
いきいきネット研修会
(広島県三次庁舎)
 - 11.22 • 労災指定病院診療所協会
75周年記念講演会
(ホテルグランヴィア広島)
 - 11.25 • 市郡地区医師会長会議 (WEB)
 - 11.26 • 広島県医師会勤務医部会
(広島県医師会館 / WEB)
 - 理事会
 - ・ 医師会費賦課徴収規程の
改正について
 - ・ 冬期賞与に関する借り入れについて
- 他
(医師会多目的室)

原稿募集

下記要領により公募しますので、ご投稿をお待ちします。原稿締切り日はありません。

記

「論 壇」

2,000字程度。題目自由。紙上匿名不可。

「私の主張」「私の趣味」

2,000字程度。紙上匿名不可。但し原稿に氏名の明記のない場合は断わります。

「文芸・芸術作品」

随筆、短歌、俳句、絵画、書、写真など。
400字程度（本号1頁掲載範囲）

「採 否」

制限字数過多あるいは執行部個人や会員個人を誹謗したり、内容が本紙にそぐわない場合、巴杏編集委員会で審査の上、返却することもあります。

※ファックス伝言板にも奮って投稿願います。

編集後記

2025年10月に高市氏が首相となり、以後、維新と連立政権を組み、2026年1月23日に維新との連立や責任ある積極財政等の是非を問うとして、急遽、衆議院解散を行いました。2月8日三次市、庄原市で大雪警報が出るくらいの大雪の中で選挙が行われ、結果、高市自民党が戦後歴代過去最高となる衆議院全体の2/3超えの316議席を獲得しました。今後、超安定した政権運営が進むことになると思われます。今年はどうな年になっていくのでしょうか？

『巴杏』第185号をお届けします。特別寄稿として広島県北部保健所所長の平本先生から「就任にあたり」として、これまでの経緯や今後の保健行政に臨む所信について寄稿していただきました。他、中西先生の少子化のお話、備北地対協後援の研修会として「備北地域の医療介護連携」を、かかりつけ医の立場から重信先生が、地域の中核病院の立場から立本先生が講演された内容を中村先生や安藤先生が分かり易くまとめていただいた原稿等、これからの人口減・超高齢化社会を見据えた医療提供体制・医療介護連携をどう築いていけばいいのか？といった非常に重要なテーマの原稿を寄稿していただきました。他、多くのおもしろく、興味深い原稿を寄稿していただいた皆様方に感謝申し上げます。

最後になりますが、年末の小川先生の突然のご逝去の訃報には驚きました。小川先生は私の城北高校の大先輩（2回生）で、17年前、三次で開業する前の挨拶に伺った時に、「城北のだいぶ後輩（私24回生）のくせに挨拶に来るのが遅いよ！」と笑って話をして下さり、以後、医師会の飲みの席では気さくに話をして下さいました。作家の北方謙三似の渋くダンディで印象深い先生でした。先生のご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご遺族の皆様方にはお悔やみを申し上げます。

松尾 洋一郎

(編集委員)

栗本 清伸	安藤 仁
加美川 誠	須澤 利文
箕岡 康明	松尾洋一郎
久行 敦士	高場 敦久
立本 直邦	

発行／一般社団法人 三次地区医師会

発行日／令和 8 年 3 月

印刷／株式会社 菁文社



「雪の巴橋」

三次写友会 山根 明代

